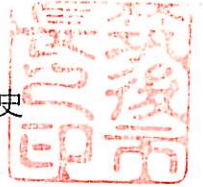


20 筑道第 799号

平成20年10月15日

国土交通省道路局長 殿

筑 後 市 長 桑 野 照 史



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

標記の件について、別紙のとおり提出いたしますのでよろしくお願いいたします。

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

福岡県筑後市

- ・道路整備を計画的かつ着実に推進するため、地方の意見が反映された中期的な計画とし、道路財源の安定した確保を図ること。
- ・道路整備の財源は受益者負担という理念に反することなく、住民が期待する道路整備を推進し、物流の効率化や中心市街地の活性化、よりよい生活環境の実現を図るため、適切な財源措置を講じること。
- ・地方の道路整備は未だ不十分であり遅れていることから、地方の道路整備を推進するため、道路特定財源制度を廃止し、平成21年度から一般財源化された後は、暫定税率分を含めた税率を本則とし、安定的かつ確実な財源の確保を図ること。
- ・地方道路整備臨時交付金は、地方公共団体の主要な事業に不可欠であることから、一般財源になっても本交付金の拡充を図ること。
- ・地方公共団体への配分割合を高めるなど、地方における道路整備財源の確保を図ること。

②-1 地域の現状と抱える課題

福岡県筑後市

○現状

筑後市は福岡県の南西部にあつて、福岡市から南へ40kmの筑後平野南部に位置しています。本市は、筑後平野を南北に貫く国道 209 号と同じく東西に貫く国道 442 号が市中央部で交差しています。また、九州を南北に貫く九州自動車道八女 IC が設けられ、筑後平野南部地域における交通の要衝となっています。

現在、福岡県において国道 442 号バイパス道路整備を、また九州新幹線筑後船小屋駅(H22 年度末開業予定)周辺道路整備を福岡県及び筑後市にて実施中であります。さらに、JR 鹿児島本線羽犬塚駅西側道路整備(平成 23 年度末供用開始予定)を筑後市にて実施中であります。また、福岡県にて筑後広域公園整備(H17 年一部供用開始)を実施中であります。

筑後市の平成 19 年度当初予算は、国の財政を取り巻く厳しい状況や大幅な地方財源の不足などにより、昨年度に引き続き厳しい予算編成となりました。本市では財政健全化計画をたて、これを基本とし行政経費の節減合理化、事務事業の厳選と優先順位の遵守、財源の効率的・重点的配分に努めるとともに「市民が主役のまちづくり」を目指しています。

しかしながら平成 19 年度一般会計決算の歳入においては市民税の減収のほか地方交付税や臨時財政対策債なども減収となるなど一般財源総額で前年度比 467,694 千円減少しています。また景気は、サブプライムローン問題による米国経済の減速や原油、穀物価格の高騰などから下揺れリスクが高まっていくものと思われ、市税収入の伸びは期待できません。さらに地方交付税や臨時財政対策債も減少傾向が続くものと推測されます。

○課題

こういった厳しい財政状況のなか、本市の道路整備は国道 209 号及び国道 442 号を主要幹線軸とする道路網体系のままであり、市中心部及びその周辺地域の道路交通混雑を解消する道路網整備が図られていません。そのため、国道 209 号、国道 442 号及び幹線道路にかかる主要な交差点においては交通渋滞が慢性化しています。(福岡県筑後市地図参照)

また、「第四次筑後市総合計画に関するアンケート調査(筑後市民意識調査報告書 H17)」において、不足している公共施設として「図書館」、「スポーツ施設」の次に多かった回答が「歩道など交通安全施設」(福岡県筑後市地図参照)でありました。

さらに市民生活に不可欠な生活道路の整備・補修においては、地元からの要望(別紙参照)が 210 件(H20 年 8 月末現在)積み残しており、財政難の折処理できていない状況です。さらに本市には橋梁が 556 橋ありますが、老朽化している橋梁も多く、今後維持管理及び長寿命化修繕の財源確保が厳しい状況です。

②-2 地域の目指すべき将来像

福岡県筑後市

- 筑後市では、長期的なまちづくりの方向性の指標となる「第四次総合計画」(平成 19 年度から平成 28 年度)を策定しています。その中から道路に関する事項を抜粋して記載します。

施策の大綱・・・「都市基盤」

道路、水路や公共下水道などの都市基盤の整備を計画的に進め、秩序と安らぎのある快適なまちづくりに努めます。

また、九州新幹線筑後船小屋駅設置に伴って、利便性を高めるために駅周辺の整備を進めるとともに、各公共交通機関との連携を図り市内交通の円滑化を進めます。

施策・・・基本事業として、「幹線道路の整備促進」「生活道路の整備推進」「道路・側溝維持補修管理(道路パトロールの強化)」を掲げ、それらの項目ごとに成果指標(事業に取り組んだ成果をはかるための指標)を決め、快適なまちづくりを目指します。

- また平成20年度には「筑後市都市計画マスタープラン」を策定し、今後 20 年後を目標とした筑後市の都市計画に関する基本的な方針を定めました。その中から道路に関する事項を抜粋して記載します。

交通体系の整備方針・・・筑後市の広域的な都市間幹線道路網は、九州自動車道をはじめ、国道 442 号が東西交通軸として、国道 209 号が南北交通軸として配置されていますが、どちらも1日あたり 1～2 万台の交通量があるため、交通混雑が発生しています。また、新たな都市間幹線道路として国道 442 号バイパスが平成 21 年度に事業完了予定となっているほか、九州新幹線筑後船小屋駅の開業にともなうアクセス道路などが計画されています。このため、広域交通網と都市内交通網との円滑な連携を図り、幹線道路から生活道路に至るまで体系化された道路網を整備し、東西・南北を結ぶ道路ネットワークの構築を図ります。

またJR駅を中心とした公共交通網では、平成 22 年度に九州新幹線筑後船小屋駅が開業することから、関係機関と連携を図りながら、在来線やバス等の利便性を高め、利用者の増加を図ります。

また、すべての人たちが安全に通行できるように、歩道の整備や幅員の拡張、段差の解消、街頭(防犯灯)の設置など、歩行者・自転車のための安全な道路空間を創出します。

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

福岡県筑後市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
地域活力の向上 少子・高齢社会 に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成	「和泉久保田前田線新設改良事業」 国土交通省道路局所管国庫補助事業（臨時交付金）にて実施中。本路線は、JR 鹿児島本線羽犬塚駅の西側からのアクセスと、駅周辺の地域活性化のために実施しています。	本市の中心地にある JR 鹿児島本線羽犬塚駅の西側からのアクセス道路を整備することにより、市民及び来訪者の利便性及び快適性を向上させるとともに、駅周辺の活性化にも寄与します。	別紙参照
良好な生活空間・自然環境の形成	「筑後市私道等整備事業補助金」 市道認定をしていない里道や私道の整備に関する要望が近年多くなっており、平成 20 年度より本市が補助金として、それらの道路整備に要する工事費の一部に対して補助金を交付するものです。 財源としては本市の一般財源を充てています。	今年度については 4 件申込みがあっており、市では整備できなかった私道の整備（舗装工事）が進んでいます。今まで砂利道だったのが、アスファルトになったことにより大幅に生活環境が改善されました。	別紙参照
都市交通の快適性、利便性の向上	「道路新設改良事業」「道路維持補修事業」 本市が認定した道路の改良工事を行い、拡幅、歩道新設等を地元からの要望により実施しています。また道路利用者が常に安全で快適に通行できるよう維持補修しています。	地元からの要望件数が 210 件（H20 年 8 月現在）積み残しされており、優先順位を決めて実施しておりますが、地元からの要望は今後も増えていくものと思われます。	別紙参照

「和泉久保田前田線新設改良事業」



幅員が狭く、利便性が悪いJR鹿児島本線羽犬塚駅周辺道路



幅員がせまく歩道がない道路を通学している学童

「筑後市私道等整備事業補助金」



(工事前)



(工事完了)

「道路新設改良事業」「道路維持補修事業」



地元から舗装整備の要望が提出されている市道



地元から舗装補修の要望が提出されている市道